

特定非営利活動法人原子分子データ応用フォーラム  
平成28年度第1回理事会

1. 開催場所 核融合科学研究所1期棟416号室および首都大学東京8号館416号室

2. 日時 平成28年5月13日

3. 現在の理事と出席理事 理事総数3名中出席理事3名

鈴木 (村上) 泉、佐々木明、田沼肇

4. 配布資料

資料1 平成27年度事業報告書 (事業報告書、活動計算書)

資料2 平成28年度事業計画案 (収支予算)

5. 議案

第1号議案 平成28年度定期総会の議案について

(1) 平成27年度事業報告案、会計報告案について

(2) 平成28年度事業計画および収支予算について

(3) フォーラムセミナーについて

(4) 会報について、会報係について

第2号議案 分科会、作業部会について

第3号議案 これまでの活動報告

第4号議案 今後の活動について

6. 議案の審議状況 第1号議案について

(1) 平成27年度事業報告案、会計報告案について

村上理事長の説明の通り承認された

(2) 平成28年度事業計画および収支予算について

(フォーラムの会計について)

現状で毎年3万円の赤字となっているので、収支をバランスさせるために、賛助会員の募集、ホームページ、会報への広告の掲載などの方法の検討を継続することにした。

(フォーラムセミナーについて)

2016年度フォーラムセミナーは、核融合研の「プラズマ科学における分光計測の高度化と原子分子過程研究の新展開」研究会と合同で12月20-22日に開催することにした。

研究会の企画、運営の効率化のため、(1)キックオフミーティングの開催、(2)議長やTWG (Technical Working Group) の設置、(3)フィードバック、フォローアップ、ネッ

トワーキングの推進等を進めることとした。このためのインターネット技術（SNS等）についても、実際の利用を試みることを含め検討を進めることとした。（会報について）

第5号のwebへの掲載、メールマガジンへの配布を行うこととした。

今井さんに引き続き会報担当をお願いすることにした。

記事を執筆したい人を募集するとともに、会員に順番に記事の執筆を依頼するという方法を併用することとした。 これまでのセミナー参加者等配布先を拡大することとした。

これらの事業内容について、事業計画書、収支予算書を作成し、総会に諮ることとした。

第2号議案について

分科会、作業部会の活動を引き続き行うこととした。

第3号議案について

村上理事長から、土岐市の法人市民税の減免が認められた旨報告された。

第4号議案について

会計、フォーラムセミナー、会報について第1号議案の中で議論した。

その他

活動が継続して行えるよう、会員募集方法を検討することとした。

定期総会を6月17日金曜日を実施することとした。

以上この議事録が正確であることを証するため、議長及び議事録署名人が記名押印する。

平成 28年 6月 17日

非営利特定法人原子分子データ応用フォーラム  
議長 鈴木(村上) 泉



議事録署名人 佐々木 暁

田沼 肇



特定非営利活動法人原子分子データ応用フォーラム  
平成28年度第2回理事会

1. 開催場所 核融合科学研究所1期棟416号室および首都大学東京8号館416号室

2. 日時 平成28年8月2日

3. 現在の理事と出席理事 理事総数3名中出席理事3名  
鈴木(村上) 泉、佐々木明、田沼肇  
オブザーバー セミナ担当係 難波慎一、鈴木千尋

4. 議案  
第1号議案 フォーラムセミナーの企画について

5. 議案の審議状況  
第1号議案 フォーラムセミナーの企画について

(1) Technical Working Group の設置について

フォーラムセミナーと素過程研究会の合同研究会として一体化した運営をするため、共通のテーマとトピックスを設定すること、メンバーの間の議論をとりまとめ最終的な決断を行う議長を置くことにし、難波さんをお願いすることにした。

(2) フォーラムセミナーの開催の形態について

フォーラムは依頼講演、素過程研究会は公募を中心としてプログラムを組み立てる。素過程研究会でも昨年は活動を広げるため、XFEL(犬伏さん)、バイオ(加道、森林、篠原さん)、慣性核融合(藤岡さん)の講演者を依頼した。今回からプログラム上で依頼講演は招待講演であることを明記することとした。

(3) Webサイトの設置について

素過程研究会のWebサイトは参加者の登録の機能を、フォーラムのWebサイトではプログラム、アブストラクト等の研究情報の公開の機能を提供することとした。

Webサイトを充実するため、それによって研究会の議論を活性化し、原子分子データのシーズとニーズのマッチングを図るため、アブストラクト(A4 pdf1ページ)を掲載することとする。アブストラクトは事前に講演の内容を周知するために掲載し、締め切りを11月末することとする。講演者のwebサイト、所属機関のwebサイトへのリンクを、講演者からの情報をもとに掲載することとした

(4) テーマとトピックスについて

テーマとトピックスを8月末までに決め、招待講演者への依頼、一般講演の公募を行う。佐々木がテーマ、難波がトピックスのリストの原案を作り、メール等で議論し、決定することとした。

トピックスのリストは以下の昨年のもをもとに改良する。

- ・磁場閉じ込めプラズマ・レーザー生成プラズマの分光診断

・衝突放射モデル・電離平衡モデル（原子・分子・多価イオン）の構築と高精度化

- ・X線レーザーを用いた極限プラズマの発生と計測技術
- ・高Z元素多価イオンの原子構造・分光研究の進展とその応用
- ・プラズマ中の放射輸送に関する研究
- ・大気圧プラズマの応用や宇宙プラズマにおける分光と原子過程
- ・プラズマ軟X線・極端紫外光源を用いた計測技術とその応用
- ・プラズマプロセスにおける分光と原子分子過程
- ・プラズマのバイオ・医療・農業応用と原子分子過程

核融合研の共同研究である以上核融合の人が参加できるように配慮することとした。

新しいトピックスとして例えば「地球大気と惑星大気の・・・」を考えると、物理学会関口、三重野（静岡大）らの講演にある生命の起源の研究のような基礎研究、地球温暖化のような社会的な問題に関連する研究（例えば人工衛星からの赤外線分光観測）を取り上げられることとした

プラズマプロセス、バイオ・医療・農業応用は産業にかかわるトピックであるが、「水が関係する原子分子過程・・・」あるいは「気液界面の・・・」でくるとプラズマプロセス、環境技術、燃焼などの分野の研究を取り込むことができる可能性がある。燃焼の媒質は低温 (<2,000K) なのでこれまではプラズマとは考えられていなかったが原子分子過程としては共通の考え方で取ることとした。現象論的になりすぎないように注意することとした。

(5) フォローアップ、フィードバックについて

会期が近づいてから検討することとした。

(6) スケジュールについて

以上をまとめ、以下のスケジュールで進行することとした。

- ・ 8月末：トピックリスト、決定
  - 招待講演者候補者リスト決定
- ・ 9月初：会議案内配布、
  - ウェブサイト開始
  - (アブストラクトテンプレート)
  - (研究室URLアドレス入力)
  - 招待講演者コンタクト
- ・ 10月末：申し込み締め切り
- ・ 11月 プログラム作成、旅費配分等
- ・ 12月初：アブストラクト提出

・フォーラムのウェブサイトに掲載

以上この議事録が正確であることを証するため、議長及び議事録署名人が記名押印する。

平成 28 年 8 月 3 日

非営利特定法人原子分子データ応用フォーラム  
議長

鈴木(村上)



議事録署名人

佐々木



田沼 肇

